



すてい~る

目次

●特集 平成30年「新年賀詞交歓会」

●平成30年「新年賀詞交歓会」開催	1
●各支部でも新年賀詞交歓会	4
●チェア・ピアちゃんがチャイルドスポンサーシップを卒業しました!	6
●私の愉しみ 樋口克彦 株式会社天彦産業 相談役	7
●突然おじゃま 鷲野敦司 名古屋特殊鋼株式会社 代表取締役社長	8
●いま世界へ! 各社が取り組む海外展開事例—イワサ株式会社	9
●理事会・委員会報告	10
●事務局だより・編集後記	裏表紙



一般社団法人全日本特殊鋼流通協会

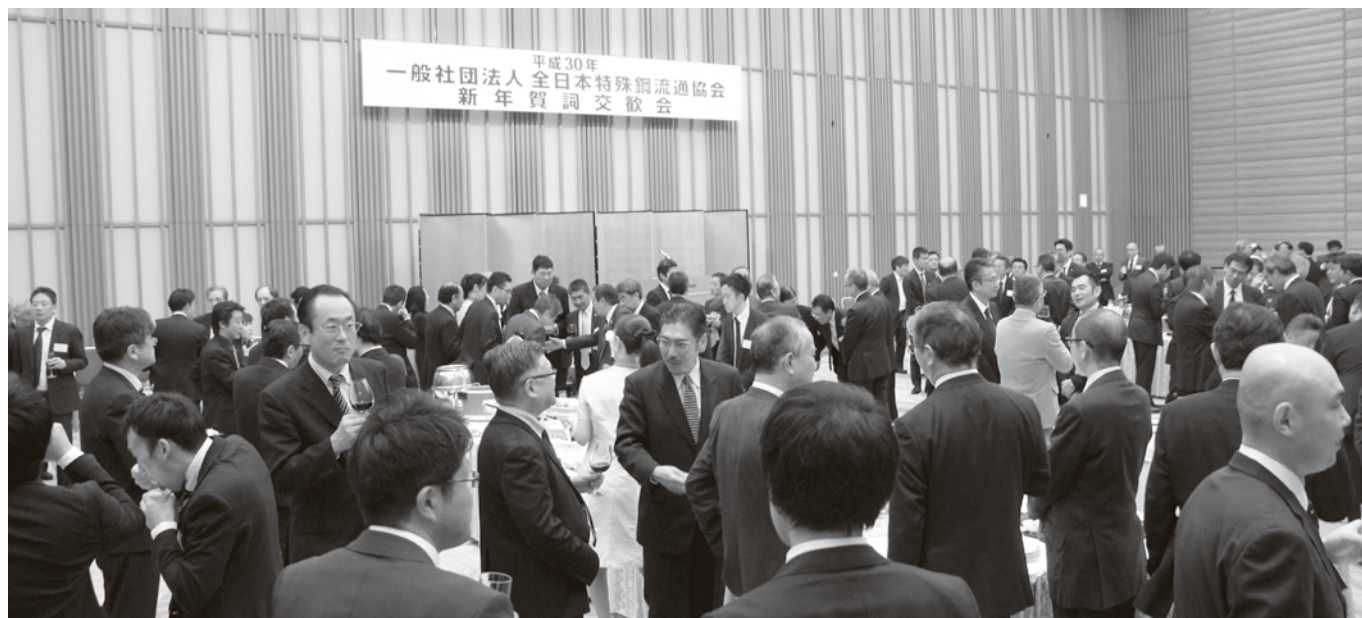
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3丁目2番10号(鉄鋼会館)

TEL.03-3669-2633・2777 FAX.03-3669-0395

ホームページ <http://www.zentokkyo.or.jp>

E-mail info@zentokkyo.or.jp

(一社)全日本特殊鋼流通協会 平成30年「新年賀詞交歓会」開催



現場の安全実現や好景気循環のための施策など 業界一丸となって取り組むテーマが共有される

全特協では平成30年1月23日(火)、東京都千代田区の「経団連会館2階ホール」で「平成30年新年賀詞交歓会」を開催した。来賓、正会員、賛助会員等約400名が参加した賀詞交歓会の冒頭で、佐久間貞介会長(佐久間特殊鋼・代表取締役執行役員社長)は「会員各位のご理解をたまり平成元年の消費税導入以来、実に30年ぶりとなる会費値上げを行った。値上げ分は単に予算に反映するのではなく、時間をかけて各事業の見直しを図り、魅力ある事業に取り組んでいきたい。資格研修制度の充実と拡充とともに取引条件改善の取り組みなど、一般社団法人としてふさわしい事業活動を積極的に推進したい」と、好調な景気の好循環を実現するための今年の取り組みについて抱負を述べた。

ご来賓を代表された小宮山康二・経

済産業省製造産業局金属課長は、取引適正化ガイドラインの活用で設備投資や従業員の賃上げにつながるような正当な対価を得てほしいとエールを送るとともに、昨年発足した「製造業安全対策官民協議会」の取り組みを紹介しながら「特殊鋼流通業界もぜひ参画し、製造業の安全を高めたい。経済産業省も最大限応援したい」などとあいさつした後、石黒武・特殊鋼倶楽部会長(大同特殊鋼・代表取締役社長執行役員)のご発声で乾杯した。

自動車関連等、好調な鋼材需要を背景にした景気をうけ、懇談も明るく熱気あふれる雰囲気で開催となった。中締めは、碓井達郎・東京支部

長(碓井鋼材・代表取締役)のあいさつと三本締めで活気にあふれたまま散会となった。



全特協会長 年頭のあいさつ

(一社)全日本特殊鋼流通協会 会長 佐久間貞介

今年は資格研修制度の充実と拡充とともに取引条件改善の取り組みなど 一般社団法人にふさわしい事業を推進したい



平成30年、新年賀詞交歓会の会場を、経済の本拠である経団連会館に移して開催させて頂いておりますが、本日はお忙しい中、また雪で足元の悪い中、経済産業省金属課長の小宮山康二様、特殊鋼倶楽部会長の石黒武様をはじめ、多くのご来賓の方々にご臨席賜りまして、誠にありがとうございます。心より御礼を申し上げます。年頭に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年の日本経済ならびに世界経済における諸情勢については、すでに各方面の賀詞交歓会の場において御披露いただいておりますので、この場は申し上げることはいたしません。戦後2番目に長い「いざなぎ景気」を超えて好景気が持続していると言われております事象が、本年も持続する一年でありますよう期待をいたすところでございます。

特殊鋼業界も、昨年、自動車向けが堅調であったことを筆頭に産業機械・建設機械向けの受注が好調に推移した年でありました。本年も高水準の需要が維持される見通しから、景況感としては、堅調に推移していくものと期待されております。

同時に特殊鋼流通業界におきましても、昨年は自動車向け及び輸出における伸びを始めとして、売上高や業績面

は堅調に伸びた1年でありました。本年もこれまで以上に製造業者と販売業者が相互に連携して、躍進して参りたいと思っております。

さて、全日本特殊鋼流通協会においては、昨年6月の総会時並びに10月の理事会において、会費の値上げについて承認・決議をいただきました。平成元年に消費税が導入されて以来、実に30年ぶりの値上げとなりましたが、会員各位にご理解いただいた賜と深く受けとめているところでございます。

これにより、新たな予算のもとで協会運営を行って参るわけでございますが、会費値上げ後の取り組みといたしましては、単に会費の値上げを予算に反映するのではなく、時間を掛けて各事業の見直しを図り、取捨選択も視野に入れ、これまで以上に魅力ある事業の予算化に努めて取り組んで参りたいと考えております。

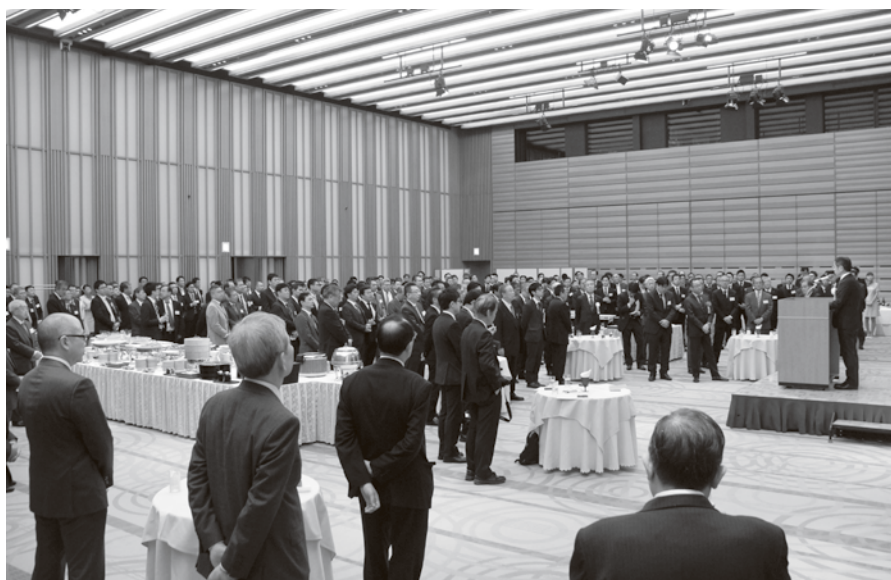
特に、個々の企業ではできない特殊鋼販売技士・加工技士の研修制度においては、充実と拡充を行っていくとともに、昨年、経済の好循環を実現していくために、経済産業省が推進して

こられた「価格決定方法の適正化」「コスト負担の適正化」「支払い条件の改善」といった取引条件改善の取り組み等、一般社団法人としての団体にふさわしい事業活動を積極的に推進して参る所存です。

加えて、当協会における会員相互の交流におきましても、全国8支部がそれぞれ一丸となって推進して参る所存です。

さらに、一昨年及び昨年と、2年続けて叙勲の栄誉に輝きました全日本特殊鋼流通協会会長並びに特殊鋼倶楽部副会長を務められた三上聡彦様、竹内誠二様のお2人におかれましては、本年も引き続き、ご指導を賜りますことをお願い申し上げる次第です。

結びとしまして、特殊鋼流通業界の発展のために、引き続き微力ではございますが、努力して参る所存です。本年も旧年と同様、皆様のご指導とご鞭撻をお願い申し上げますとともに、ここにお集まり頂いております皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げ、簡単ではございますが、新年の御挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございます。



(一社)全日本特殊鋼流通協会 新年賀詞交歓会

平成30年1月23日(火) 経団連会館 2階ホール

ご来賓祝辞

経済産業省製造産業局 金属課長 小宮山康二 様



取引適正化や安全対策、情報電子化の促進など 経済産業省も政策面から最大限バックアップしたい

佐久間会長の
お話しにもあり
ましたが、特殊
鋼流通業界にお
いても景気は上向きで、生産も2016年
5月から昨年9月まで連続して増加して
きています。こうした景況感のなか、
経済産業省としても皆様に期待してい
ることがあります。まずは、この景気
の成果をしっかりと受けていただくこ
とです。昨年、取引適正化のガイドラ
インを作成し、金属業界のほか各業界

に周知を行っています。これを、ぜひ
活用いただき仕事に対する正当な対価
を手にしてください。そして、手に入
れた正当な対価は設備投資や社員への
賃上げに活用されるよう希望していま
す。2つめは作業の安全です。昨年、
鉄鋼業界はじめ10の業界団体で製造業
の安全を高めていくための官民協議会
を立ち上げました。9月には経営者の方
に集まっていただき、作業の安全に
関する4つの経営理念をまとめ計画も
立てられました。今年は計画を実行に

移す年です。製造業の安全をみんなで
高めていきましょう。経済産業省とし
ても最大限応援します。また、経済産
業省としてはデータを電子化してやり
とりする「コネクテッド・インダスト
リーズ」という取り組みを提唱してい
ます。企業間での電子化されたデータ
やりとりは、製造業全体の生産性を上
げ、景気を底支えるために必要な活
動です。特殊鋼流通業界においても、
こうした取り組みを進めてくださいま
すようお願いいたします。

乾杯ご発声

(一社)特殊鋼倶楽部
会長 石黒武 様

業界のますますの発展のため
今年もみなさんと前に進む年に



特殊鋼の熱間圧延鋼材ベース
の速報値で昨年は2030万トンと、
久しぶりに2000万トンを超えて
非常にいい年でした。今年も引
き続き、品質のしっかりしたもの
を安定的に供給し、日本のもの
づくりを支えていく特殊鋼に

携わる一員であることを心がけていきたいと思ひます。
課題としては人材の話があります。少子高齢化が進展
しているところに好景気の人手不足も重なり、人材の
確保にみなさんご苦労されています。全特協は特殊鋼
販売技士制度のほか工場等の視察や見学会の実施な
ど、業界の人材を分厚くしていくことを継続されてお
り敬意を表したいと思ひます。特殊鋼倶楽部もこれに
しっかり協力しながら、業界の人づくりから業界を発
展させ、今年も前に進んでいきたいと考えています。

中締めあいさつ

(一社)全日本特殊鋼流通協会
東京支部長 碓井達郎

さらに魅力的で充実した事業を
提案、推進する協会として



冒頭に佐久間会長が申し上げられたとお
り、会費もいよいよ値上げしなければいけ
なくなりました。しかし、その分ますます
魅力的で充実した事業を提案し、すすめて
いきます。ご理解をいただいた会員のみな
さまに感謝申し上げますとともに、この一年、
健康にご活躍できるよう祈念して三本締め

で締めくくりたいと思ひます。



各支部でも新年賀詞交歓会

東京支部

開催日時：平成30年1月23日(火)
開催場所：経団連会館 2階ホール

出席者：約400名
(一社)全日本特殊鋼流通協会との合同開催

大阪支部

開催日時：平成30年1月5日(金)
開催場所：リーガロイヤルホテル(大阪市北区)
出席者：約760名

[大阪ステンレス流通協会、特殊鋼倶楽部大阪支部との3団体共催]

冒頭、3団体を代表してあいさつに立った大阪ステンレス流通協会の今井隆理事長(大和特殊鋼・代表取締役社長)は「自動車、建機、建築・土木、半導体、化学など主だった需要分野が好調だったことで久しぶりで好況を実感できた1年だった。一方で、人手不足や運賃の上昇など厳しい問題を突きつけられており、これから大きな経営問題になってくるのでは」と昨年を振り返った。次に来賓を代表して近畿経済産業局の志賀英晃産業部部長が祝辞を述べ、松井一郎大阪府知事の代読で、大阪府商工労働部商業・サービス産業課の平野有一課長補佐があいさつした。引き続き登壇した特殊鋼倶楽部大阪支部の井上満支部長(山陽特殊製鋼・取締役大阪支店長)は「昨年は特殊鋼需要がワンステップステージが上がった年だった。今年はさらにステップアップすると思う。背景として、昨年度から今年度は大手企業が増収増益となっていることで投資への準備も整っている。そこに、第4次産業革命といわれる新たな技術革新の大波が世界規模で起きていることなども含め、投資も雇用も拡大し、賃金上昇から個人消費も上がりGDPも拡大。経済の好循環がステップアップすると確信している。関西地区はさまざまなインフラ整備が控えているので関西経済は発展するはず」と期待を寄せ、乾杯を行った。



▲あいさつする今井大阪ステンレス流通協会理事長



▲あいさつする井上特殊鋼倶楽部大阪支部長



▲3団体から約760名が参加し和気あいあいと活気あふれる会場

名古屋支部

開催日時：平成30年1月10日(水)
開催場所：名古屋観光ホテル
出席者：約430名

[名古屋ステンレス流通協会、特殊鋼倶楽部名古屋支部との3団体共催]

冒頭、3団体を代表し山下良隆名古屋ステンレス流通協会理事長(リントック代表取締役社長)が挨拶に立ち「愛知県は自動車関連、機械、素材などが集積するものづくり王国であり、今後もリニア中央幹線などのインフラ整備、名古屋駅エリア、栄エリアの再開発が目白押しであることから、しばらく良い状況が続くと期待されている。スポーツを通じた社会貢献活動を積極的に展開いただき、人材育成や働き方改革のヒントに繋がっていたきたい」と述べた。続いて、来賓を代表して経済産業省中部経済産業局産業部・岩田則子次長があいさつした後、樋口芳支部長(辰巳屋興業・取締役社長)が乾杯の発声し、懇親会へと進んだ。中締めは深津和也特殊鋼倶楽部名古屋支部長(愛知製鋼参与)が行い散会となった。



◀(左から)あいさつする山下理事長、岩田次長、樋口支部長、深津支部長



◀乾杯は樋口支部長の発声で行われた

東北支部

開催日時：平成30年1月18日(木)
開催場所：仙台国際ホテル
出席者：55名

仲隆文氏(UEX・東北支店長)の司会のもと、日下俊之支部長(クサカ鋼材・代表取締役)が「我々の業界でも景気上昇の動きが感じられるようになった、反面人手不足の話が聞こえてくる。必要な人がいないミスマッチが発生している。我々がまずやるべきことは人材育成である。当協会では特殊鋼販売技士の育成に注力している。個人のスキルアップだけでなく企業内での新たなビジネスモデルの構築につなげられる。是非とも特殊鋼販売技士の資格を取得して多方面にわたる活躍を期待したい。協会の行事として東北支部主催のトヨタ東日本の工場見学、東京支部主催の上海の海外視察もありました。今後もぜひ多くの皆様に参加いただき支部内、東日本ブロック内の交流を深めていきたい」とあいさつ。来賓として伊藤秀史氏(大同特殊鋼工具鋼営業室長)があいさつされ、乾杯の発声は武田裕正氏(東特興業・代表取締役社長)が務め、穏やかな懇談が行われ小宮健夫東日本ブロック副ブロック長(アマダマシーンツール)の中締めで盛会のうちに散会となった。



▲あいさつする日下支部長

北 関 東 支 部

開催日時：平成30年2月18日(日)
開催場所：伊香保温泉「ホテル木暮」
出席者：20名

鈴木支部長(鈴木機械・代表取締役)が新年のあいさつと北関東地区の市況を述べた後、「北関東の流通業の重要性が益々増してくる中、素材をいかにして安心・安定して供給し続けられるか皆さんと一緒に意見交換をしていきたい。全特協北関東支部は価格や法的に係る話し合いは決してしない。コンプライアンスを最重要視していることを改めて宣言する」と結んだ。並松昌嗣・大同特殊鋼工具鋼事業部企画管理室長による市況説明会の後、本部の伊藤龍也業務部長の乾杯の音頭で懇親会へ。長谷川弘和副支部長(長谷川ハガネ店・代表取締役)が中締めのあいさつを行い散会した。



▲あいさつする鈴木支部長



静 岡 支 部

開催日時：平成30年2月21日(水)
開催場所：静岡グランドホテル中島屋
出席者：17名

席上、原支部長は「当支部では昨年、特殊鋼販売技士2級講座を開き、多くの方に資格を得て頂いた。今年は3級、来年は1級講座を予定しており、会員各社から奮ってご参加頂けるようお願いしたい」とあいさつした。

続いて、同支部とともに中日本ブロックに所属する名古屋支部を代表し、樋口芳支部長(辰巳屋興業・取締役社長)が乾杯の音頭を取り、「品薄感が強まる上、値上げ浸透にも取り組むべき足元の状況は非常に厳しい。しかし今後の業界発展、適正口銭の確保をめざし、皆で足並みを揃えてユーザーと交渉し、粘り強く理解を得られるよう努めよう」と呼び掛けた。懇親会では和やかな雰囲気の中、会員同士交流を深めた。



▲あいさつする原支部長



▲あいさつする樋口支部長



▲乾杯の様子

中国 支 部

開催日時：平成30年1月25日(木)
開催場所：シェラトングランドホテル広島
出席者：41名

増田厚子副支部長(南海鋼材・広島事業所所長)の司会のもと、木村雅昭支部長(深江特殊鋼・代表取締役)が、「お客様に貢献し、業界で働く人の生活を守る為には、価格転嫁をしっかりと実施し、適正利益を確保することが必要。本日の会合に参集の皆様同士の懇親が深まり、相互の信頼度が向上し、広島での相場も向上することを願っている」とあいさつ。続いて、林康一・大同特殊鋼工具鋼部長兼工具鋼営業部長、福原実晴副会長兼西日本ブロック長(南海鋼材・代表取締役社長)が来賓としてあいさつされた。

その後、瓦井隼人・山陽特殊製鋼広島支店長の乾杯で懇親会がスタート。ホテル特製の料理とカープの黒田投手のサインボールをはじめとするカープ選手グッズが商品のアトラクションで大いに盛り上がり、鎌田晴美(鎌田特殊鋼・代表取締役社長)の中締めで、盛会のうちに散会となった。



▲あいさつする木村支部長



▲大いに盛り上がったアトラクション

九 州 支 部

開催日時：平成30年1月9日(火)
開催場所：ANAクラウンプラザホテル
出席者：204名[九州ステンレス流通協会との共催]

来賓の経済産業省九州経済産業局・福岡製造産業課長から「我が国の産業には特殊鋼・ステンレスの普及は不可欠である」とのご祝辞を頂き、特殊鋼メーカーを代表して三菱製鋼・野中西日本支社長の乾杯の音頭で華やかに開会した。

中締めは、福原実晴副会長兼西日本ブロック長(南海鋼材・代表取締役)がユーモアを交えあいさつし、盛会裏に閉会した。



▲あいさつする野中氏



▲福原副会長による中締め



▲野中氏の音頭により乾杯



チェア・ピアちゃんが チャイルドスポンサーシップを卒業しました！

2010年より社会貢献活動の一環として続けてきた、国際NGOワールド・ビジョン・ジャパンの「チャイルド・スポンサーシップ」。これは、社会基盤や経済が不安定な国に住む子供たちを支援する国際的な里親制度です。

このたび、7年間支援してきた、チェア・ピアちゃんが仕事に就き、今後は自分の力で生活できる状況となったため「支援の卒業」を迎えました。ピアちゃんが「働きたい」という意思を強く持っており、現地スタッフがチャイルドおよび家族と話し合い、この選択が最良であるとの判断に至りました。

ピアちゃんは、これまでの支援を通じ中等教育まで受けることができました。当協会としても、支援してきたチャイルドが未来に向かって大きく前に踏み出したことは、嬉しい限りで、今後地域や国の前進の担い手として活躍していくことを願うばかりです。

ピアちゃんは卒業しましたが、協会としてはこの社会貢献活動を続けていくべく、新たにベトナムのザン・ティバウちゃんを支援することになりました。ピアちゃん同様、彼女が大きく羽ばたくよう貢献できればと思います。



親愛なるJSSDAさま

チャイルドのチェアをご支援いただきありがとうございます。おかげさまでコミュニティの住民の意識が随分変わり、ヘルスケアや、清潔な乳児授乳の重要性を理解し、多くの点で生活改善ができました。ただ、今回チャイルドがコミュニティを離れることになり、プログラム支援を修了することになることはさびしいことです。これからは、コミュニティの他のチャイルドの支援をして下さるととても嬉しく思います。スポンサーさまのお幸せ、健康そして長寿をお祈りしております。

愛をこめて サンロウトゥ(ユースボランティア)



新しくスポンサーする

ザン ティバウちゃん
(2004年6月27日生)

ベトナム・ムオンチャ地域に住む中学7年生(日本の中学1年生)の女の子。家族6人で暮らし、好きな遊びは運動場で遊ぶことです。

ムオンチャ地域情報

開発プログラム支援期間：2011年～2023年

首都ハノイから北西へ約570kmの山岳地帯。支援地域にはモン族、ターイ族などの少数民族も多く暮らしています。少数民族は各民族の言語を使用しているため、子どもたちが学校でベトナム語の授業についていけなかったり、ベトナム語の読み書きができないため十分な行政サービスが受けられないなどの問題が発生しています。

住民は、米、とうもろこし、キャッサバピーナッツ、たけのこなどを伝統的な農法で育てたり、豚、ヤギ、鶏などの家畜を飼育して生計を立てています。

※全特協のチャイルドスポンサーシップ関連記事は、すてぃーる41号(2010.7)・45号(2011.12)・56号(2016.3)に掲載しています。

私の愉しみ

(株)天彦産業 相談役／樋口克彦(全特協・前副会長)

自然や歴史、文化に触れながら 50年を超える海外の旅で得てきたもの



■50カ国以上200回を超える海外旅行歴

これまで海外旅行に200回以上も出かけた経験があるという樋口相談役。昭和41年、会社と取引があった台湾の得意先に、視察や営業をかねて出張したのが最初だったというから、その海外旅行歴は50年を超える。

「びっくりしたのはある金物屋で天彦の名前が入ったのこぎりが飾られて売られていたこと。当社ののこぎりは戦前から朝鮮や中国、フィリピン、樺太などで販売していたが、その当時はもう製造していなかった。それでも、日本製の信用があって高く売れるということで、現地の誰かが天彦の名入りのコピー製品をつくって販売していた」。海外では、そのような驚きの出会いの数々がある。

社用では、取引先のある台湾には100回以上も訪れている。また、上海とタイに拠点をもち、海外事業の占める割合が高いため東南アジアを中心にした歴訪は数え切れない。社用以外では、業界団体の活動で訪れた国々が多いことも樋口相談役の海外旅行歴を華やかにしている。全特協だけでなく、大阪商工会議所や東大阪商工会議所など地域の会から取引銀行のシンクタンクまで多数の異業種交流会に携わっていた樋口相談役は、現在でもそれらのOB会に所属している。

「ももとは内気で引っ込み思案な性格だったので、背伸びしてでも地域の人たちとつながらないといけなと思って参加した。初対面の人たちが集まって仲良くなるには、団体行動する海外旅行に行くのが一番ということでの会でも毎年でかけました」と振り返る。天彦産業は、台湾をはじめアジア

各国と業務の付き合いが多かったことから、取引先を通じて各国での視察先を組みやすかったことも、業界団体で樋口相談役が重宝された理由になった。

■夫妻で巡る欧州各国の旅

樋口相談役が、ヨーロッパを中心とした私的な旅行に出かけるようになったのは20年ほど前からだという。「自分ばかりが出かけているので女房も連れて行こうと思って、ヨーロッパをじっくりまわることをはじめた」と言う。夫婦で訪れた国々は、イタリアを手はじめに、フランス、ドイツ、スペイン、クロアチア、スロベニア、デンマーク、フィンランド、ノルウェー、スウェーデン。オーストラリア、ニュージーランドにカナダも訪れているが、ハワイ、グアム、サイパン以外のアメリカ本土は興味をもてないため未訪問だという。

「古い歴史とか雄大な自然に関心があるのか、ヨーロッパの方が好み。あとは、チェコ、スロバキア、ハンガリー、オーストリアという中央ヨーロッパにまだ行けていない。中世の雰囲気があるまま残っている国々だということで機会があればと思っている」

訪れた国で印象に残る思い出といえば、雪山の景観がすばらしかったスイスを筆頭にあげる。「女房が百名山めぐりをするほど山好きなので夫婦で雄大な自然を楽しめた」と樋口相談役。カナディアンロッキーとノルウェーの山岳地帯もすばらしかったと言う。「先にノルウェーを見て感動したが、後で訪れたカナダはさらに雄大だったので出かける順番がよかった」と旅の巡り合わせの運にも恵まれた。歴史的な印象では、街全体が美術館のようなイタ

リアがもっとも印象的だった。「歴史的建造物の数々に宗教施設の壁画、普通に人が暮らしている建物や道路の石畳や階段の手すりなどすべてが骨董品や美術品のようですばらしい」と樋口相談役は振り返る。

■好奇心が刺激され知識が高まる旅の魅力

旅から得るものは、景色にせよ歴史にせよ、植物などの自然にせよ、新しく触れるものがたくさんあることだと樋口相談役は言う。「旅行で得た知識が、帰国後も書物や写真で触れることで記憶もあらたになり、好奇心を刺激して今度はあの国に行ってみようという関心が続く」と旅の魅力を語る樋口相談役。一度、訪れた国は帰国後に国際ニュースで話題になると、その後の関心が強くなり自ら調べ物をするようになるなどの変化を楽しめるのも意外な魅力だと言う。

「この2月で84歳になったので、さすがに十何時間も飛行機に乗るのはしんどくなってきた。これからは、いままで手薄だった国内のあちこちでも回ろうかと女房と話している」と笑う樋口相談役。今後も旅先での出会いに好奇心を刺激されながら、ご夫婦仲良くすばらしい旅を続けてもらいたいものである。



昭和60年、東大阪商工会議所「後継経営者研究会」の視察研修で訪れた台北にて。左から4番目が当時の樋口相談役。

突然おじゃま



名古屋特殊鋼(株) 代表取締役社長／鷺野敦司

昭和40年に特殊鋼流通業として創業し、現在では素材提案から設計、ときにはユーザーの工法提案も行いながら包括的に金型製造を行う名古屋特殊鋼。金型メーカーとしては地区でも有力企業であり、自動車向け分野を中心にアメリカ、インドネシアでも事業展開する。2017年3月に社長に就任した鷺野篤司氏にお話をうかがってみた。

総合力アップした金型メーカーとして 若手社員と社内改善にも取り組む

■素材提案から試作・物出しまで総合力に自信

名古屋特殊鋼が、鋼材問屋から金型メーカーに進化をはじめたのは1980年ごろ。見よう見まねで面削や穴あけなどの加工をはじめ、付加価値による競争力を志向。3次元測定機を導入するなどしながら高精度加工を手がけるようになった。

「問屋時代から在庫を切断・加工し、即納体制を敷いていたため『納期の特(めい)とく』と評価されていました。その上で材料特性に通じた営業を行っていたため、ユーザーから『金型の寿命が短く困っている』という相談があれば材料提案も行っていたことが、金型製作につながった」と振り返る。以来、20年あまりで、国内のほかアメリカ、インドネシアにも拠点をもつ金型メーカーとして成長した名古屋特殊鋼だが、新たな事業分野にも積極的に取り組む。

そのひとつが、溶接補修による金型のリユース事業だ。金型は、使用環境により製品品質確保のためのサイクル管理がシビアで、長寿命化によるコスト低減のユーザーニーズは大きい。名古屋特殊鋼では2014年からダイカスト金型、プレス金型を中心に溶接補修による長寿命化の技術研究と事業化に取り組んできた。その結果、独自技術を施して良好なりユース金型が得られるようになり事業化。北海道とインドネシアを中心に引き合いが多いという。

また、壊れた金型や図面がない金型を非接触の3DカメラでCAD化するデジタル化業務も好調だ。「社内を実験用プレス機も備えているので、設計から製作・試作まで一貫した提案力が強みです」とトータル金型メーカーとしての総合力に自信をみせる。

■社内、社員の「不」を取り除く改善を

鷺野社長は、大学卒業後三菱製鋼を経て2004年に名古屋特殊鋼に入社し、14年に常務、昨年3月に社長に就任した。現在取り組んでいるのは、社内や社員から「不」の付くものを取り除く改善だという。「不健康や不具合、不安全などが対象です。若手社員を中心にみんなと話し合いながら進めています」という鷺野社長。名古屋特殊鋼の平均年齢は37.5歳と若い。鷺野社長も2月に42歳になったばかりなので社員からも「物おじせず意見が言いやすい」と好評だ。

趣味はゴルフ、読書、音楽鑑賞。特に、読書はビジネス本からミステリーまで月に2～3冊は読むという読書家だが、最近3人の愛娘と買い物や近所の公園に出かける時間を多く割くようにしているという。好きな言葉は、伝教大師最澄が「自らを忘れて他者の幸せのために尽くす」と教えた《忘己利他(もうこりた)》だという。

■ラリー参戦でクルマ文化の普及も

昨年からトヨタ自動車協力会の縁で

TGRラリーチャレンジにも参戦している。

「プロのドライバーが運転する車に乗せてもらい、サーキットとダートの走行を昨年2回経験させてもらい、走る楽しさというものを実感しました。そこで同じ体験をした協力会若手の会の仲間とラリーに出ようとなりまして」と経緯を語る。鷺野社長はラリーカーのナビゲーション担当のコ・ドライバーだが、定期的な練習が必要なため今はそちらに割く時間も多いいという。

「全日本ラリー選手権で優勝したドライバーを講師に、スキー場の大きな駐車場などでパイロンを並べてジムカーナの練習などを行っています。今後は、山岳コースに行って実地の走行練習もあります」と本格的にのめり込んでいく気配も。もっとも、「ゆくゆくは、レースに興味がある社員にやってもらったり、会社がある犬山地域の他企業を協賛に募ったりしながら上位入賞し、町おこしになればいいと考えています」と、個人の楽しみを超えてクルマ文化の普及も念頭にあるようである。



ラリーカーで雪上走行の練習をする鷺野社長

いま世界へ！各社が取り組む海外展開事例

国内の消費不振に加えて輸入鋼材の調達が一般化するなど、特殊鋼の国内需要も大きな伸びは期待できない時代に入っている。また、為替変動リスクにも対応するため自動車部品を中心としたメーカー各社の海外生産シフトは既定路線となっている。そうした背景から、特殊鋼流通各社も規模の大小を問わず、海外に拠点展開することが顕著になっている。シリーズ第14回は、創業から68年ミガキシャフトをメインに磨鋼材の取り扱いで知られる東大阪市のイワサ株式会社の、インドネシアでの展開事例について岩佐営業本部長にお話をうかがってみた。



イワサ株式会社
取締役営業本部長
岩佐嘉久氏

インドネシアで自動車・二輪を中心とした 部品加工の新工場を開設し、日系企業に供給図る

長年の取引先の海外展開に伴い インドネシアに拠点を開設

イワサ(株)の海外進出は、2015年2月の「イワサ・ミガキ・インドネシア」の設立にはじまる。同現地法人は、長年取引のあった自動車関係の部品製造会社の海外進出をきっかけに、日本国内同様、現地で材料の供給を行うため進出した。計画が持ち上がった12年ごろから現地調査など準備をはじめ、13年9月の連絡事務所を経て、現地企業との合併で設立された。

当初は、現地の日系顧客に日本国内同様、様々な鋼材を提供する流通として、事務所と鋼材の切断を行う工場を開設。工場は投資リスクを軽減するため賃貸とした。

「賃貸にしたのはインドネシアが法律や関税がよく変わるところで、ビジネス環境が想定どおりか不透明だったため。最初から思い切った投資をするのはリスクだと判断しました」と、当時は年に6～7回もインドネシアに出張して現地法人立ち上げに奔走した岩佐氏が振り返る。しかし、この慎重な判断が後に生きることとなる。

現地の政策に惑わされるも 機敏な対応で製造会社に業態変更

海外進出のきっかけとなった長年の顧客以外に現地の日系企業数社との取引もはじまった。開設まもなく、順調に推移するかに見えた現地法人に難局が訪れる。国産品の消費推進による自国産業の保護が目的として関税が引き上げられたのだ。イワサ(株)の主力商品である磨鋼材は17.5%と大幅なアップとなった。開設2年後の16年冬の出来事だった。

「また、ほどなくして自国鉄鋼製品保護の輸入許可規制も施行。輸入材流通に対して非常に厳しい政策がとられました。15年の関税引き上げもあり当社は利益的にも、業務的にも大打撃でした」

そこで、イワサ(株)は先の合併による現地法人は休眠させて、鋼材の切断や穴あけ、溶接などの加工を行う製造業である100%子会社の「イワサ・オートパーツ・ヌサンタラ」を昨年6月、新たに設立した。

「製造業となることで商社のような活動には制約を受ける。しかし、協力会社等の中小企業が未だ未整備のこの国での立ち位置を明確化する為、業種の変更に踏み切りました」

当初、投資リスクを懸念したとおり現地の税制や法律の急激な変更で、流通から製造会社へ機敏に業態転換を行ったのである。「海外のスタート時に慎重を期して正解でした。実は、最初の会社の合併相手は華僑の方。長年、現地で採まれているだけあってビジネス眼は正確でした」とよきパートナーとの出会いを振り返る。

新会社は、延床面積1,040m²の賃貸工場に、切断機以外にもシャーリング機、プレス機などを導入。熱処理や機械加工などは現地協力会社と連携し、自動車やバイク、建機、産機、農機向けの部品を製品段階まで加工する。従業員は旧会社からの移行で、現地責任者を務める出向者の日本人1名を含む12名。ローカルスタッフの1名はイワサの福岡支店3年間の実務経験がある元技能実習生だ。

多品種・小ロットに日本品質 便利な使い勝手と安心をPR

新会社は、鋼材を国内外から小ロットで調達する機能を持ち、製品加工まで一貫して行うという業態では、実はインドネシアの日系法人では初めての存在となるという。

インドネシアでの商売も、日本国内の例にもれず「必要なときに必要な数量だけ購入する」というパターンになっている。そのため、「切断・加工を経た、多品種・小ロットの素材をフットワークよく納入できる、弊社のような存在が必要とされているのではないかと」岩佐氏は力説する。現調化が既定路線となっている海外の日系ユーザーは、在庫管理の省力化を目的に小ロットでの納入を希望することがほとんどである。

「さまざまな小口のオーダーを集約してコンテナに積み込んでくる当社の出番です。少量でも素材、加工は日本品質。顧客に利便性と安心感を提供します」と自信にあふれる。

インドネシアの鉄は、まだまだ輸入に多くを頼っているのが現状だ。材料調達には苦労しているユーザーも多いと岩佐氏を見る。同国の景況に影響されにくい企業体質をつくる意味でも、今後はさまざまな業態のユーザーに取引の裾野を広げていくのが展望と目標だ。輸出用自動車部品輸送の鋼製パレットの製造を手がけるなど、日本とはまったく異なる製品ジャンルも開拓し、対応している。「インドネシアでの実績から日本国内での販路拡充も実現しています」という岩佐氏。日本国内との相乗効果。海外事業は大きな苦勞の連続。それでも最近はその醍醐味に、手応えをひしひしと感じだしたところだという。



ジャカルタ郊外に設立した「イワサオートパーツヌサンタラ」の工場と現地スタッフ

理事会・委員会報告

■運営委員会

○第19回運営委員会

日 時：平成30年1月23日(火)15:30～17:00

於：大手町・経団連会館 室町の間

- 内 容：①平成30年度の事業方針と同年度の予算について
②委員及び講師等の諸手当の支給内規の一部改正について
③正会員と賛助会員の定義づけの一部見直しについて
④会費見直し(値上げ)について説明を要する主な会員と説明員について
⑤支部報告、委員会報告について
⑥その他(次回理事会等の日程)

■経営効率化委員会

○第12回経営効率化委員会

日 時：平成29年12月6日(水)15:00～17:00

於：鉄鋼会館

- 内 容：①前回(第11回)の経営効率化委員会議事録報告について
②大阪支部「ビジネススクール」内容・成果報告について
③全国イベント「第2回全国ボウリング大会」の結果報告及び来年度の予定について
④平成30年度事業計画(案)及び予算(案)の考え方について
⑤次回委員会について

■人材育成委員会

【特殊鋼販売加工技士検定試験委員会】

日 時：平成30年2月8日(木)15:20～16:40

於：安保ホール

- 内 容：①改訂版テキスト及び改訂版研修制度のご案内について
②平成29年度の加工技士講座実施状況について
③平成29年度特殊鋼販売加工技士「上級編」検定試験の問題選定について
④検定試験、採点及び合否判定など加工技士研修のスケジュールについて

■広報委員会

○第15回広報委員会

日 時：平成30年2月13日(火)15:00～17:00

於：安保ホール

- 内 容：①広報誌「すてぃーる64号」の記事校正確認等について
②広報誌「すてぃーる65号」の記事内容等について
③平成30年度事業計画案及び予算案について
④ホームページのリニューアルについて

■調査研究委員会

○第19回調査研究委員会

日 時：平成29年12月21日(木)15:00～17:00

於：大阪・鉄鋼會館

- 内 容：①第83回(7-9月)景況アンケート調査報告
②第84回(10-12月)景況アンケートの設問について
③統計調査のメール配信化について
④第16回経営環境等に関するアンケートの設問について
⑤平成30年度事業計画(案)及び予算(案)の考え方について
⑥次回委員会日程について

■青年部会

○第14回正副部会長会議

日 時：平成30年2月5日(月)15:30～17:00

於：大阪・鉄鋼會館

- 内 容：①第15回運営委員会の内容について
②はがねの日記念、PR小物品の作成について
③平成30年度事業計画案及び予算案について
④青年部会の活性化について
⑤来期上半期のスケジュールについて

事務局だより

1 定時総会の開催について

今年の定時総会は6月に東京・パレスホテルにて以下のスケジュールで開催を予定しております。
詳細については改めて会員の皆様にご案内いたしますが、揃ってご参加くださいますようよろしくお願い致します。

- (1) 日程及び場所 平成30年6月18日(月) 於：東京・パレスホテル
- (2) 第6回定時総会 14：30～15：30の予定
- (3) 臨時理事会 15：35～16：00の予定
- (4) 講演会 16：15～17：45の予定
- (5) パーティー 18：00～19：40の予定

2 特殊鋼販売技士「入門編」及び「3級」の研修講座開講について

(1)「入門編」研修講座

毎年度初めの時期に、特殊鋼販売技士研修制度のスタートとして「入門編」の研修講座を実施しております。

平成30年度も下記の支部にて開講を予定しておりますので、奮って受講下さるようお願い致します。

「入門編」の研修内容は、特殊鋼を学ぶために必要な金属(鉄・非鉄)の基礎知識で、受講資格は特殊鋼に関心のある者となり、学歴・性別・年齢などは問いません。講座時間は6時間となり、1日で修了します。

あらためて各支部事務局より開講のご案内を致しますので、受講される方は開講予定の各支部事務局へ申し込んでください。

開講支部名	開講日	会場
東京支部	平成30年4月26日(木)	東京・鉄鋼会館
名古屋支部	平成30年4月25日(水)	名古屋・東桜会館
大阪支部	平成30年4月11日(水)	大阪・鐵鋼會館

(2)「3級」研修講座

また、5月中旬～7月初旬にかけ各支部に於いて「3級」講座を開講する予定です。

研修内容は特殊鋼の基礎知識で、構造用鋼、工具鋼、ステンレス鋼などを30時間の講座にて習得した後、全国一斉に検定試験を実施(7月4日)する認定制度になっております。

「3級」講座につきましても受講資格は特殊鋼に関心のある者となり、学歴・性別・年齢などは問いません。各支部より改めて開講のご案内をいたします。詳細につきましては各支部事務局にお問い合わせください。

3 「4月1日ははがねの日」をPRするため印刷セロテープを制作

青年部会では「4月1日ははがねの日」を対外的な事業として認知度を高めるため、2016年11月に「日本記念日協会」に記念日登録をしました。

さらに青年部会では、普及のために毎年PR小物を制作し正会員の皆様に配布してきましたが、今年は4色の「印刷セロテープ」を制作し配布いたします。是非PR用にご使用ください。

4月1日ははがねの日 全特協 4月1日ははがねの日 全特協

4月1日ははがねの日 全特協 4月1日ははがねの日 全特協

4月1日ははがねの日 全特協 4月1日ははがねの日 全特協

4月1日ははがねの日 全特協 4月1日ははがねの日 全特協

編集後記

今年の冬は北陸、北日本の豪雪で大変でした。当社の金沢支店も一週間ほど仕事になりませんでした。
世界経済は昨年より緩やかに上昇しております。会員のみなさまにおかれましても値上げ納期調整と忙しくされていると存じます。製鋼メーカーも超フル生産が続いているようです。

しかしながら「山高ければ谷深し」といいます。株価も下がり円高にふれています。用心するにこしたことはございません。一歩ずつ慎重に前進しましょう。

すていーる 64号を発行します。今号が皆様に届くころは櫻前線の声も聞こえ始めていることと思います。

今回は、全国、各地で開催された賀詞交歓会の模様を中心に伝えております。

樋口前副会長の旅の話も一興です。御拝読ください。今年は協会の諸事情により会費の値上げもごさいます。御勘案いただき何卒ご理解ください。会員の皆様と御家族の御健勝を祈念しております。

久木田 至